



OKAYAMA
POLYPHONIE
ENSEMBLE

第 22 回演奏会

2006 年 11 月 26 日 (日)
岡山市民文化ホール

プログラム

第一部

ルネサンス合唱名曲選 スペイン宗教曲集より

T. L. de ビクトリア

アヴェ・マリア	Ave Maria
御空には喜びあり	Gaudet In Coelis Animae Sanctorum
イエズスの面影	Jesu Dulcis Memoria
永遠の奇跡よ	O Magnum Mysterium
おお栄光の満てる主なるキリスト	Missa O Quam Gloriosum Est
すべて道ゆく人よ	O Vos Omnes
われらの罪も涙も	Vere Languores Nostros

第二部

ルネサンス器楽曲集 ルネサンス音楽の黄金期 ～ エリザベス1世の時代 ～

アルメイ「愛の果実」	アントニー・ホルボーン
パヴァーン「葬送」	アントニー・ホルボーン
ガリアルド	アントニー・ホルボーン
ファンタジア	トマス・レイヴンズクロフト
フーガの技法より「対位法第3番」	ヨハン・セバスチャン・バッハ
ファンタジア「全能の神」	ジョン・ブル
パドゥアーナ	ウィリアム・ブレード
ガリアルド	ウィリアム・ブレード
ヴォルト「第100番」-「第201番」	ミハエル・プレトリウス



休憩



第三部

カンタータ第 82 番 「われは満ち足りり」

J. S. バッハ

BWV 82 *Ich habe genug*

Johann Sebastian Bach

アリア	Aria:	Ich habe genug
レツィタティーフ	Rezitativ:	Ich habe genug
アリア	Aria:	Schulummert ein, ihr matten Augen
レツィタティーフ	Rezitativ:	Mein Gott ! wann kommt das schöne Nun !
アリア	Aria:	Ich freue mich auf meinen Tod

<バス : 中川 創一>

カンタータ第 102 番 「主よ、汝の目は信仰を顧みたもう」

J. S. バッハ

BWV 102 *Herr, deine Augen sehen nach dem Glauben!*

Johann Sebastian Bach

第 1 部

Erster Teil

合唱	Chor:	Herr, deine Augen sehen nach dem Glauben!
レツィタティーフ	Rezitativ:	Wo ist das Ebenbild, das Gott uns eingeprägt,

<バス : 中川 創一>

アリア	Aria:	Weh der Seele, die den Schaden
-----	-------	--------------------------------

<アルト : 脇本 恵子>

アリオオーゾ	Arioso:	Verachtest du den Reichtum seiner Gnade,
--------	---------	--

<バス : 中川 創一>

第 2 部

Zweiter Teil

アリア	Aria:	Erschrecke doch,
-----	-------	------------------

<テノール : 有馬雄二郎>

レツィタティーフ	Rezitativ:	Beim Warten ist Gefahr;
----------	------------	-------------------------

<アルト : 脇本 恵子>

コラール	Choral:	Heut lebst du, heut bekehre dich,
------	---------	-----------------------------------

プログラム・ノート

ルネサンス合唱名曲選 スペイン宗教曲集より ～ T. L. de ビクトリア

トマス・ルイス・デ・ビクトリア(Tomás Luis de Victoria:ca.1546?～1611)は16世紀、スペインで活躍した作曲家である。当時のスペインは宗教音楽、世俗歌曲、リュートやオルガンのための器楽音楽など、あらゆるジャンルの音楽で《陽の没することなき》黄金世紀を迎えていた。その時代にその一生を教会音楽家として過ごしたビクトリアは、ミサ曲20曲、モテトゥス44曲、イムヌス34曲、そしてマニファクト18曲など、ルネサンス期スペイン音楽の繁栄を代表する作品を数多く創作している。

ビクトリアはイタリアでルネサンス・ポリフォニー書法を学んだ後にスペインに戻り、スペイン音楽の特徴とも言える神秘主義的表現を加えた、熱情的ともいえる作風を確立した。

彼は凝った対位法は遠ざけて、単純な旋律線とホモフォニックな音の織り合わせを好んだ。それでいて多種多彩なリズムの変化、驚くほどの音の明暗とも言える対比を行っている。また、ビクトリアは随所で、16世紀当時の厳格対位法では禁則とされていた音程を用いている(上行する長6度音程、減4度音程)。このような織り合わせ・変化・対比・そして時には禁忌とされた音程を奏でよう創られた楽曲が、演奏を聴く者そして演奏する者に対してビクトリアの宗教的な熱情を想起させるのであろう。

既にお気づきの方もおられると思うが、本日の演奏は皆川達夫・高野紀子一編「ルネサンス合唱名曲集(全音楽譜出版社)」をテキストとしている。これは合唱音楽に触れた方には馴染みの楽譜であろう。テキストの序文において、印象的な次の言葉が記されている。

(前略)ルネサンス期の合唱作品は、合唱を志す者が必ず一度は通るべき原点であり、出発点である。これをマスターすることによって、合唱の基礎的な諸技術、特にポリフォニーの歌唱法を習得できようし、同時に、ハーモニーの本質もはじめて理解することができよう。(後略、以上、原文のまま)

我々も、原点に立ち返るという想いで、マスターピースであるこのテキストを歌いたい。四声の絡み合い・流れ・旋律と旋律の積み重ねにより創られるポリフォニー音楽を、我々が充分かつ存分に表現できるよう心から祈念し、ビクトリアの音楽に正面から対峙したいと想う。

< 藤井隆志 >

ルネサンス音楽の黄金期 ～ エリザベス1世の時代 ～

今回の器楽ステージで取り上げる6人の作曲家のうち、アントニー・ホルボーン、トマス・レイヴンズクロフト、ジョン・ブル、ウィリアム・ブレードの4人はいずれもイギリス・ルネサンスの黄金期として知られるエリザベス1世の時代に活躍しています。そこで、エリザベス1世とその時代のイギリスについて少し説明しておきたいと思います。

大英帝国の礎を築いたことで知られているエリザベス1世(1533～1603)は、「率直王」として有名なヘンリー8世と、王妃キャサリン・オブ・アラゴンの侍女であったアン・ブーリンとの間に誕生しました。エリザベスは幼少から学問の才に優れ、ラテン語、ギリシャ語、フランス語、イタリア語を流暢に話せたといい、また音楽の才能は父親ゆずりで、リュートやヴァージナル(小型のチェンバロ)を弾きこなしたといわれています。

ヘンリー8世は、王妃の侍女であるアン・ブーリンとの結婚を認めさせるため、わざわざ「英国国教会」を設立してカトリックから離脱するということまでしましたが、エリザベス誕生後3年も経たない1536年に、母アン・ブーリンは不貞の罪で処刑されてしまいます(ヘンリー8世が女官ジェーン・シーモアと再婚したかったのがその理由といわれています)。ヘンリー8世の死後、イギリス王家はエドワード6世(ジェーン・シーモア息子)、メアリー1世(キャサリン・オブ・アラゴンの娘)と引き継がれていくことになります。その間、エリザベスは反逆罪で逮捕されてロンドン塔に幽閉されるなど不遇の時を過ごしましたが、幸運にも処刑を免れメアリー1世崩御後の1558年、25歳の時にイギリス国王として即位しました。

若く美しく知性にあふれる彼女はイギリス国民から敬愛され、国中が歓喜して新しい女王の戴冠式を祝いました。エリザベス女王はまず宗教改革を行い、ヘンリー8世が国教会を成立させて以来争ってきたカトリックとプロテスタントをまとめていきます。また、1588年にはドーバー海峡でスペインの無敵艦隊を破ったことでイギリスの海外進出が容易になり、イギリス経済は大いに発展していきます。このように、政治・経済とも安定した状況の中でイギリス・ルネサンス文化が花開くことになるのです。

このような時代背景のもとに活躍した作曲家の作品を演奏することによって、その当時のイギリスの雰囲気をもっと伝えることができればと思っています。

どうか、ゆっくりとお楽しみ下さい。

アントニー・ホルボーン

アントニー・ホルボーン(Anthony Holborne、1545年頃～1602年)は、エリザベス1世の宮廷に「ディレクター(音楽愛好家)」として出入りしていた音楽家で、リュートのための独奏曲や、ヴィオール・コンソートのための合奏曲など多くの器楽曲を作曲しました。作曲家として同時代から最高の評価を受けており、ジョン・ダウランドから「僕は見た、あの人が泣くのを (I saw my lady weepe)」を献呈されています。

トマス・レイヴンズクロフト

トマス・レイヴンズクロフト(Thomas Ravenscroft、1582年～1635年)はイギリスの作曲家・楽譜編集者で、イングランドの民謡や俗謡を集めた曲集を出版したほか、キャッチや輪唱のような世俗の重唱曲の作曲家としても活躍しました。

ジョン・ブル

ジョン・ブル(John Bull、1562年または1563年～1628年)は、イギリス出身の作曲家でオルガン建造家です。1591年に王室礼拝堂オルガニストに就任し、1596年にはエリザベス1世のお墨付きでグresham・カレッジの音楽科教授に着任しました。当時、卓越した作曲家や鍵盤楽器奏者(とりわけ即興演奏家)として名声を博しました。

ウィリアム・ブレード

ウィリアム・ブレード(William Brade、1560年～1630年)は、エリザベス朝のイギリスに生まれたヴィオール奏者で、ドイツがおもな活躍の場であったこと以外は詳しいことはわかりません。

ミハエル・プレトリウス

ミハエル・プレトリウス(Michael Praetorius、1571年～1621年)はドイツ出身の作曲家・オルガニスト・音楽理論家です。数多くの曲を作曲したものの、そのほとんどがルター派のための教会音楽でしたが、唯一の世俗音楽集として舞曲集「テプレシコーレ」を残しています。また、彼が執筆した論文集「音楽大全」は同時代の演奏習慣や楽器について詳細な説明と図解がなされ、古楽演奏の分野にとって重要な資料となっています。

< 葛谷光隆 >

J.S.バッハ カンタータ第 82 番 「われは満ち足りり」

マリア潔めの祝日《2月2日》用

書簡章句: マラキ書、3:1-4(使者が道を備え、主はその宮に来る)

福音書章句: ルカ伝 2:22-30(幼な子イエスがエルサレムの宮に入り、シメオン老人に会う)

バッハがライプツィヒのトマス教会カントルに就任して3年目の、1726年から着手された教会カンタータ第3年巻に含まれる作品である。「マリア潔めの祝日」のためのカンタータで、バス独唱用の名曲として、広く親しまれている。1727年2月2日に初演され、その後は1731、1735、1735以降、1746/47、1747/48年に再演されている。

「マリア潔めの祝日」の福音書章句は「主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない(ルカ福音書 2:26)」シメオン老人が救世主としての幼な子イエスに出会い、心満たされて死に赴く、という物語を伝えている。台本(作者不詳)はこのシメオンを「私」に見立て、安らかな死への、甘美にして熱烈な憧憬を歌い出した。曲はまず、イエスを抱いた老人の感動をまざまざと伝える、ハ短調のアリアに始まる。genung(現代語では genug)には「満足する」という意味と「もう充分、もう沢山」という意味がある。カンタータ第1曲の旋律は、何とマタイ受難曲の有名なアルトの嘆きのアリアと酷似した「嘆き」の旋律である。バッハが何故「満ち足りた」「満足」の言葉に「嘆き」の旋律を当てたのか。一般に Ich habe genung の訳として、「わたしは満ち足りた」、すなわち、シメオン老人の幼な子イエスに出会え心満たされた満足感、が当てられる。しかし曲想からは、そこに「もう充分だ、長く生きすぎた」という嘆きを見いだすことができる。この曲を通じて同じ genung という語が「もう充分だ」から「満ち足りた」に転化していく。そして、続くレチタティーヴォで「満足」の対象は来世へと転換され、満ち足りた子守歌である第3曲のアリア、すなわち変ホ長調の子守歌へと続くのであろう。ここでの安息の表現とこの世へのきっぱりした訣別(中間部)の対比は、感動的である。こうして魂は現世に最後の別れを告げ、協奏曲風の終結アリアにおいて死への待望を、もの狂おしいほどの喜びをこめて歌う。

なお、バッハは1731年頃ホ短調に移調されたソプラノ独唱のための稿を作成した。オブリガード楽器には音域の都合からフルートが用いられた。この稿はテノールでも演奏可能である。さらにバッハは、1735年以降に、メゾ・ソプラノ用のハ短調稿を作っている。

<坂本尚史>

J.S.バッハ カンタータ第 102 番 「主よ、汝の目は信仰を顧みたまう」

三位一体後第 10 日 曜日用

書簡章句: コリント人への第 1 の手紙、12.1-41 (霊の賜物について)

福音書章句: ルカ伝 19.41-48 (エルサレム破壊の預言と、宮からの商売人の追放)

バッハは、カントルに就任して3年目の 1726 年 2 月から 5 月にかけて、自作の上演をやめ、マイニンゲンの親戚であるヨハン・ルードヴィヒ・バッハの作品を 13 曲続けて演奏した。その後は、ヨハン・ルードヴィヒ・バッハの作品もまざるものの、新作の上演が復活しているが、9 月までに作曲されたカンタータのうち 7 曲はヨハン・ルードヴィヒ・バッハの作風の影響を強く受けたものとなっている。すなわち、冒頭に旧約聖書、中心に新約聖書、終曲にコラールを配し、その間をレチタティーボとアリアでつなぐシンメトリックなものである。その理由として考えられるのは、これらの曲に用いられたルードルシュタット歌詞本の存在である。バッハは 6 曲のカンタータを作曲した。昨年演奏したカンタータ 45 番もその 1 曲である。ある意味で、バッハはこの間のカンタータの統一を計ったと言えるのかもしれない。本作品もルードルシュタット台本によるカンタータの一つで、1726 年 8 月 25 日に初演された (1731 年再演)。この日朗読されるのは、受難を控えてエルサレムに近づいたイエスが町の未来を憂え、泣きながら語ったとされる言葉。このため、それをふまえたテキストも迫り来る滅びをにらんで、厳しい戒めの調子が目立っている。その厳しさは、不協和音を鋭く使ったバッハの言葉を得て、いっそう痛切に聴き手に届けられたことであろう。

第 1 部は、旧約聖書の聖句 (エレミヤ書) による大規模で手の込んだ合唱曲に起こり、「破れを知らざる魂の災い」を描く、不安に満たされたアルトのアリアに達する。本来は第 2 部を起こすべき新約聖書の聖句——バスのアリオーソ——が珍しく第 1 部の終わりに来ているのは、説教の前に神の恵みを明るく予告しておきたい、との配慮であろう。しかし、説教を経た第 2 部註にも、滅びへの警告は繰り返される。迫り来るとき、急ぐべき悔い改め……………。

バッハの音楽はゆるみない真摯さで、テキストの要求を裏付けてゆく。

なお、この作品からは第 1、3、5 曲が小ミサ曲 BWV235 と BWV233 に転用された。

バッハの時代のライブツヒでの礼拝は午前 7 時から始まり 10 時または 11 時までかかるもので、その式次第の大筋は次のようなものであったとされている。

礼拝はオルガン前奏で始まり、入祭踊としての多声モテット、ミサ通常文の「キリエ」と「グロリア」が歌われる。ここから言葉による礼拝へと入り、書簡聖句、福音書章句の朗読のあとカンタータ (の第 1 部、もしくは全曲) が演奏される。このあと、牧師による説教が約 1 時間続く。説教後の勤めが一段落すると (場合によると「サンクトゥス」がはさまれ) カンタータ (の第 2 部、または別のカンタータ) が演奏された。その後、聖餐が設定され、晚餐となり何らかの音楽 (カンタータの第 2 部との説もある) が演奏された。このほかにも、種々の祈りやコラー

ルを交えつつ礼拝が進行した。

このように、カンタータは朗読された福音書の想念を解釈し、発展させ、説教への備えをする機能と、その後の説教の内容を補完する機能を持っていた。バッハのカンタータが『音楽による説教』と言われる所以である。今回のカンタータ102番の場合、朗読される福音書章句(ルカ伝 19.41-48)の内容は、エルサレムに入場した際の、イエスのエルサレム破壊の預言に対する嘆きと、墮落した神殿内の様子に対する怒り、である。歌詞に用いられているエレミヤ書ではエルサレムの墮落とそのためにエルサレムが破壊されるだろうとの預言が語られている(この破壊はイスラエルの民のバビロニア捕囚をもたらす)。

直前の節(エルサレムの墮落、エレミヤ書 5.1)では

エルサレムの通りを巡り

よく見て、悟がよい。

広場で尋ねてみよ、一人でもいるか

正義を行い、真実を求める者が。

いれば、わたしはエルサレムを赦そう。

と語られている。恐らく説教では、正義を行い、真実を求め、悔い改めることの大切さが述べられたのであろう。それを受けて第2部では、いつやって来るかわからない死の裁きへの備えとしての、悔い改めの必要性が求められているのである。

書簡章句: コリント人への第1の手紙、12.1-11(霊の賜物について)

1. 兄弟たち、霊的な賜物については、次のことは是非知っておいてほしい。
2. あなたがたがまだ異教徒だったころ、誘われるままに、ものの言えない偶像のもとに連れて行かれたことを覚えているでしょう。
3. ここであなたがたに言っておきたい。神の霊によって語る人は、だれも「イエスは神から見捨てられよ」とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです。
4. 賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。
5. 務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。
6. 働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。
7. 一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。
8. ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言葉が与えられ、
9. ある人にはその同じ“霊”によって信仰、ある人にはこの唯一の“霊”によって病気をいやす力、
10. ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。
11. これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。

福音書章句：ルカ伝 19.41～48（エルサレム破壊の預言と、宮からの商売人の追放）

41. エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、
42. 言われた。「もしこの日に、おまえも平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には見えない。
43. やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄せ、
44. お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまうだろう。それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである。」
45. それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで商売をしていた人々を追い出しはじめて、
46. 彼らに言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。」
47. 毎日、イエスは境内で教えておられた。祭司長、律法学者、民の指導者たちは、イエスを殺そうと謀ったが、
48. どうすることもできなかった。民衆が皆、夢中になってイエスの話に聞き入っていたからである。

< 坂本尚史 >

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

(Johann Sebastian Bach 1685年3月21日 - 1750年7月28日)

18世紀に活動したドイツの作曲家、さらには鍵盤楽器の名手として、西洋音楽史上において極めて重要な位置にある巨大な存在であり、もっとも偉大な一人である。バッハ家は音楽家の家系であり、バッハ姓の作曲家は非常に多い。

ヨハン・ゼバスティアンは、しばしば「J. S. バッハ」と略記され、また「大バッハ」とも呼ばれる。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

Member

- 指揮：** 坂本 尚史 (バッハ)
林 真一 (ビクトリア)
- 合唱：**
ソプラノ 板野陽子・岡田由理・岡野美絵・柴山陽子・武田美樹
船場淳子・福田順子
アルト 行地知子・坂本新子・坂本真理子・霜山瑞穂・藤井友佳
脇本恵子(賛助出演)
テノール 有馬雄二郎・奥井伸二郎・小野正人・林 真一・村田知規
バス 奥田良明・坂本卓也・坂本尚史・藤井隆志
中川創一(賛助出演)
- 合奏：**
ルネサンス器楽曲
リコーダ 葛谷光隆・坂本尚文・高畠稔雄
野原直子・吉村玲子
リコーダ & パーカッション 大山夏奈江・奥井伸二郎
パーカッション 柴山陽子
ナビケータ 山本みずゑ
- J. S. バッハ カンタータ**
ヴァイオリン(1st) 榎本伸子・白石良子
ヴァイオリン(2nd) 角南洋子
ヴィオラ 宮本幸子
チェロ 宮本 正
コントラバス 青木洋江
フルート 葛谷光隆
オーボエ 都築常明・都築登史恵
ファゴット 小野エリコ
オルガン 山本みずゑ

表紙デザイン: 近間 文

Okayama *Polyphonic Ensemble*

岡山ポリフォニーアンサンブル

問合せ先 : 090-2005-7254 (団長:有馬)

URL <http://park11.wakwak.com/~ope/>

MAIL ope_web@hotmail.com